

(望月政樹 293-0036 富津市千種新田 45-21)  
 (中村 涼 113-8657 文京区弥生 1-1-1  
 東京大学農学生命科学研究科森林動物学研究室)

吉富博之・久松定智・保科英人, 2019. ホコリタケにつく甲虫類. さやばねニューシリーズ, (34): 1-5.

(山本雅則 521-1322 近江八幡市安土町宮津 1-57)

### 【短報】奈良県初記録種フチトリツヤテントウダマシをタヌキノチャブクロから採集

フチトリツヤテントウダマシ *Lycoperdina dux* Gorham, 1873 をタヌキノチャブクロ *Lycoperdon pyriforme* Schaeff. (ハラタケ科) から採集したので報告する. 春日山における採集は奈良県指令奈公事第 6-21 号に基づき行った.



図 1. フチトリツヤテントウダマシ (スケール: 1.0 mm).

3 exs. (図 1), 奈良県奈良市春日山 (alt. 196.1 m, N34°41'c6" E135°51'13"), 10. XI. 2022, 筆者採集, 保管.

本報告はフチトリツヤテントウダマシの奈良県からの初記録と考えられる. ツヤテントウダマシ属 *Lycoperdina* はホコリタケ類と関係があり (吉富ら, 2019), 本種は日本では普通種

で, 標高 250 ~ 950 m の低・中山間地域に分布し, キツネノチャブクロ (ハラタケ科) から採集される (Sogoh & Yoshitomi, 2017). 芦屋市では冬季湖畔に堆積した枯葉中から見いだされ, 神戸市ではノウタケ (ハラタケ科) から採集された (高橋, 1982). Hashimoto & Hayashi (2014) は本種がカンタリジンベイトトラップに誘引されることを報告している.

末筆ながら, キノコに関し確認と知見をご教示いただいた横山明子氏 (みなくちこどもの森), 仲介の労をとられた河瀬直幹学芸員 (みなくちこどもの森) に記してお礼申し上げる.

### 引用文献

- Hashimoto, K. & F. Hayashi, 2014. Cantharidin world in nature: a concealed arthropod assemblage with interactions via the terpenoid cantharidin. *Entomological Science*, 17 (4): 388-395.  
 Sogoh, K. & H. Yoshitomi, 2017. A revision of the genus *Lycoperdina* (Coleoptera: Endomychidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 23 (1): 103-112.  
 高橋寿郎, 1982. 兵庫県のテントウダマシ (兵庫県甲虫相資料). きばりはむし, 10 (1): 11-20.

### 【短報】石川県におけるナガムクゲキスイの初記録

ナガムクゲキスイ *Biphyllus* sp. は平野 (2010) により和名が記されている学名未決定種である. 同文献では, ライトトラップで得られたこと, 山地性の可能性があることが記されているが, 確認事例が乏しく不明な点が多い. これまでに本州の岐阜県, 愛知県, 滋賀県, 奈良県, 広島県などで記録されている (平野, 2010; 大塚・角島, 2012; 間野, 2018; 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 2018; 木村・池田, 2022).

石川県で記録されたムクゲキスイムシ科は, ムナビロムクゲキスイ *Biphyllus aequalis* (Reitter, 1889), フトナミゲムクゲキスイ *B. complexus* Sasaji, 1983, ケマダラムクゲキスイ *B. flexuosus* (Reitter, 1889), カタモンムクゲキスイ *B. humeralis* (Reitter, 1889), ナミゲムクゲキスイ *B. inaequalis* (Reitter, 1889), クロアシムクゲキスイ *B. japonicus* Sasaji, 1983, クズリュウムクゲキスイ *B. kuzurius* Sasaji, 1985, アカグロムクゲキスイ *B. lewisi* (Reitter, 1889), ハスモンムクゲキスイ *B. rufopictus* (Wollaston, 1873), ベニモンムクゲキスイ *B. suffusus* (Wollaston, 1873), クリロムクゲキスイ *B. throscoides* (Wollaston, 1874) の 11 種である (入場, 1994; 石川県, 1998; 高羽, 2002; 保科ら, 2003; 渡部・福富, 2019; 平松ら, 2020). 筆者は石川県未記録のナガムクゲキスイ (図 1) を採集しているため, 同県初記録として報告する. 採集および保管者は全て筆者であるため省略した.



図 1-2. 石川県初記録のナガムクゲキスイ (1) と生息環境 (2).

1 ex., 能美市松が岡 (light trap), 1. IX. 2019; 2 exs., 同地 (light trap), 6. IX. 2019; 5 exs., 能美市松が岡 (スプレー法), 27. IV. 2020.

9月に採集した個体は、林縁で実施したライトトラップに飛来したものである。4月に採集した個体は、林内の折れたアベマキの枝(図2)からスプレー法により得られた。この枝は、2018年冬の降雪により、木の上部(地面から約5m)に折れた状態で引っかかっているのを確認しており、2019年冬の積雪により地面に落下したものである。大塚・角島(2012)は樹木に引っかかったクヌギの新鮮な枝から本種を採集しており、比較的新鮮な樹木である点が本採集事例と類似していた。

#### 引用文献

- 平松新一・富沢 章・松井正人・川瀬英夫・江崎功二郎・福富宏和・嶋田敬介・渡部晃平, 2020. 2016年から2018年に白山で観察された昆虫類の記録. 石川県白山自然保護センター研究報告, (46): 57-78.
- 平野幸彦, 2010. 日本産ヒラタムシ上科図説 第2巻 ホソヒラタムシ科・キスイモドキ科・ムクゲキスイムシ科. 61 pp. 昆虫文献六本脚.
- 保科英人・佐々治寛之・高橋直樹・牛嶋啓明, 2003. 2002年石川県白山系で採集された甲虫類 付 オオキノコムシ科昆虫の1新種の記載. 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (10): 15-39.
- 石川県, 1998. 石川の自然環境シリーズ 石川県の昆虫. 537 pp. 石川県環境安全部自然保護課.
- 木村史明・池田 大, 2022. 令和2年度 飛鳥地域における昆虫相調査. 樺原市昆虫館研究報告. (1): 4-19.
- 間野隆裕(編), 2018. グリーンデータブックあいち2018 昆虫編. Pp. D1-280. 愛知県の生物多様性 グリーンデータブックあいち2018, 愛知県環境部自然環境課.
- 入場 登, 1994. 石川県産甲虫の記録. アカハネムシ, (9): 2-3.
- 大塚健之・角島幸二, 2012. 広島県で採集したナガムクゲキスイの記録. 月刊むし, (493): 47.
- 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 2018. 滋賀県昆虫目録. [http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/shigakoncyuu/h30\\_shigakoncyuu.html](http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/shigakoncyuu/h30_shigakoncyuu.html) (2022年11月29日参照).
- 高羽正治, 2002. 石川県の甲虫覚書(II). とっくりばち, (69): 1-5.
- 渡部晃平・福富宏和, 2019. 石川県におけるコウチュウ目6種の初記録. さやばねニューシリーズ, (36): 61-62.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地  
石川県ふれあい昆虫館)

#### 【短報】北海道におけるオビホソテントウダマシの記録

オビホソテントウダマシ *Leiestes fines* (Sasaji, 1995) は、青森県鯉ヶ沢町を模式産地として記載された種であり (Sasaji, 1995), 青森県, 群馬県及

び栃木県から記録されている (尾崎, 2000; 平野, 2007; 前原, 2011). 第二筆者はこれまで記録のなかった北海道で本種を採集しているため報告する.

1♂, 北海道札幌市南区砥山八剣山, 2. V. 2021, 田作採集, 保管.

リターをツルグレン装置にかけることにより得られた.

末筆ではあるが、本種の記録についてご教

示いただいた中村涼氏と堀繁久氏、投稿に際しご協力いただいた中野文尊氏に厚く御礼申し上げる.

#### 引用文献

- 平野幸彦, 2007. オビホソテントウダマシ群馬県の記録. 月刊むし, (431): 44-45.
- 前原 論, 2011. 栃木県で採集したカメムシと甲虫について. インセクト, 62 (1): 56-59.
- 尾崎俊寛, 2000. 青森県の甲虫類 (3). テントウムシダマシ科, マルテントウダマシ科について. *Celastrina*, (35): 61-79.
- Sasaji, H., 1995. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, VIII. *Memoirs of the Faculty of Education, Fukui University, Series2*, 47 (2): 21-30.

(脇村涼太郎 005-0807 札幌市南区川沿7条  
4-6-8 C-102)

(田作勇人 062-0005 札幌市豊平区美園5-6-2-16)

#### 【短報】岩手県におけるゲンゴロウ科2種の初記録

岩手県では、これまでにゲンゴロウ科43種が記録されている (鈴木, 1988; 岩手県生活環境部自然保護課, 2001, 2020; 森・北山, 2002; 阿部ら, 2003; 高橋・茅橋, 2005; 成瀬, 2008, 2009; 初宿, 2011; 茅橋ら, 2015). 筆者らは岩手県初記録となるゲンゴロウ科2種を採集しているので、新分布記録として報告する.

種の同定は Okada (2011) や Watanabe & Kamite (2020) を参考にして渡部がおこなった. 採集地は全て岩手県であるため、県名を省略した.



図1. 北海道産オビホソテントウダマシ. スケール: 1.0 mm.